

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年11月11日
【四半期会計期間】	第5期第1四半期（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）
【会社名】	株式会社アスラポート・ダイニング
【英訳名】	Asrapport Dining Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 檜垣 周作
【本店の所在の場所】	東京都港区高輪二丁目16番29号
【電話番号】	03-6459-3231（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部長 齊藤 隆光
【最寄りの連絡場所】	東京都港区高輪二丁目16番29号
【電話番号】	03-6459-3231（代表）
【事務連絡者氏名】	管理本部長 齊藤 隆光
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 （大阪市中央区北浜一丁目8番16号）

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成22年8月13日に提出いたしました第5期第1四半期（自平成22年4月1日 至平成22年6月30日）四半期報告書の記載事項の一部に誤りがありましたので、これを訂正するため四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、四半期連結財務諸表の記載内容にかかる訂正箇所については、XBRLの修正も行いましたので、併せて修正後のXBRL形式のデータ一式についても提出いたします。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

第5 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書

（第1四半期連結累計期間）

注記事項

（1株当たり情報）

3【訂正箇所】

訂正箇所は__線で示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第4期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第5期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第4期
会計期間	自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日
《省略》			
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()	(千円) 5,901	<u>29,466</u>	6,801
純資産額	(千円) 449,376	<u>488,804</u>	459,387
総資産額	(千円) 5,452,932	2,665,585	2,775,857
1株当たり純資産額	(円) 2,707.74	<u>2,962.88</u>	2,784.57
1株当たり四半期(当期) 純利益又は1株当たり四半 期純損失()	(円) 35.77	<u>178.61</u>	41.22
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		
自己資本比率	(%) 8.2	<u>18.3</u>	16.5
《省略》			

(訂正後)

回次	第4期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第5期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第4期
会計期間	自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	自 平成21年4月1日 至 平成22年3月31日
《省略》			
四半期(当期)純利益又は 四半期純損失()	(千円) 5,901	<u>9,574</u>	6,801
純資産額	(千円) 449,376	<u>468,912</u>	459,387
総資産額	(千円) 5,452,932	2,665,585	2,775,857
1株当たり純資産額	(円) 2,707.74	<u>2,842.31</u>	2,784.57
1株当たり四半期(当期) 純利益又は1株当たり四半 期純損失()	(円) 35.77	<u>58.03</u>	41.22
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		
自己資本比率	(%) 8.2	<u>17.6</u>	16.5
《省略》			

第2【事業の状況】

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(訂正前)

(1) 業績の状況

《省略》

以上により、当第1四半期連結会計期間の売上高は1,807百万円、営業利益は66百万円、経常利益は63百万円、四半期純損益は29百万円となりました。なお、当第1四半期連結会計期間において、資産除去債務に係る過年度資産除去費用27百万円を特別損失として計上しております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

《省略》

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は2,665百万円となり、前連結会計年度末に比較し110百万円減少いたしました。これは主に、借入金の返済に伴う現金及び預金の減少によるものであります。

負債合計は2,176百万円となり、前連結会計年度末と比べ139百万円減少いたしました。これは主に、借入金の返済によるものであります。

純資産については、四半期純利益の計上により、前連結会計年度末と比べ29百万円増加し、488百万円となっております。

(訂正後)

(1) 業績の状況

《省略》

以上により、当第1四半期連結会計期間の売上高は1,807百万円、営業利益は66百万円、経常利益は63百万円、四半期純損益は9百万円となりました。なお、当第1四半期連結会計期間において、資産除去債務に係る過年度資産除去債務費用27百万円を特別損失及び法人税等調整額として19百万円を計上しております。

セグメントの業績は次のとおりであります。

《省略》

(6) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第1四半期連結会計期間末の総資産は2,665百万円となり、前連結会計年度末に比較し110百万円減少いたしました。これは主に、借入金の返済に伴う現金及び預金の減少によるものであります。

負債合計は2,196百万円となり、前連結会計年度末と比べ119百万円減少いたしました。これは主に、借入金の返済によるものであります。

純資産については、四半期純利益の計上により、前連結会計年度末と比べ9百万円増加し、468百万円となっております。

第5【経理の状況】

2. 監査証明について

(訂正前)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

(訂正後)

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第1四半期連結会計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）及び前第1四半期連結累計期間（平成21年4月1日から平成21年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表並びに当第1四半期連結会計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成22年4月1日から平成22年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、東陽監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(訂正前)

	(単位：千円)	
	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係 る要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
《省略》		
固定負債		
《省略》		
その他	116,911	129,882
固定負債合計	1,082,456	1,047,126
負債合計	2,176,781	2,316,469
純資産の部		
株主資本		
資本金	576,688	576,688
資本剰余金	534,986	534,986
利益剰余金	621,338	650,805
自己株式	1,428	1,428
株主資本合計	488,907	459,441
《省略》		
純資産合計	488,804	459,387
負債純資産合計	2,665,585	2,775,857

(訂正後)

	(単位：千円)	
	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係 る要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
《省略》		
固定負債		
《省略》		
その他	136,803	129,882
固定負債合計	1,102,348	1,047,126
負債合計	2,196,673	2,316,469
純資産の部		
株主資本		
資本金	576,688	576,688
資本剰余金	534,986	534,986
利益剰余金	641,230	650,805
自己株式	1,428	1,428
株主資本合計	469,015	459,441
《省略》		
純資産合計	468,912	459,387
負債純資産合計	2,665,585	2,775,857

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
《省略》		
税金等調整前四半期純利益	3,161	34,119
法人税、住民税及び事業税	9,076	4,653
法人税等合計	9,076	<u>4,653</u>
少数株主損益調整前四半期純利益		<u>29,466</u>
少数株主損失()	13	
四半期純利益又は四半期純損失()	5,901	<u>29,466</u>

(訂正後)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
《省略》		
税金等調整前四半期純利益	3,161	34,119
法人税、住民税及び事業税	9,076	4,653
法人税等調整額	—	<u>19,892</u>
法人税等合計	9,076	<u>24,545</u>
少数株主損益調整前四半期純利益		<u>9,574</u>
少数株主損失()	13	
四半期純利益又は四半期純損失()	5,901	<u>9,574</u>

【注記事項】

(1株当たり情報)

(訂正前)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額	2,962.88円
1株当たり純資産額	2,784.57円

2. 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失等

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純損失 35.77円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。	1株当たり四半期純利益 178.61円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失() (千円)	5,901	29,466
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	5,901	29,466
期中平均株式数(株)	164,976	164,976

(訂正後)

1. 1株当たり純資産額

当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成22年3月31日)
1株当たり純資産額	2,842.31円
1株当たり純資産額	2,784.57円

2. 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失等

前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
1株当たり四半期純損失 35.77円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載していません。	1株当たり四半期純利益 58.03円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

(注) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失の算定上の基礎

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失() (千円)	5,901	9,574
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失()(千円)	5,901	9,574
期中平均株式数(株)	164,976	164,976

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年11月11日

株式会社アスラポート・ダイニング
取締役会 御中

東 陽 監 査 法 人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 井 上 司 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉 田 光 一 郎 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 金 野 栄 太 郎 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アスラポート・ダイニングの平成22年4月1日から平成23年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成22年4月1日から平成22年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成22年4月1日から平成22年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アスラポート・ダイニング及び連結子会社の平成22年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

1. 四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき四半期連結財務諸表を訂正している。当監査法人は訂正後の四半期連結財務諸表について四半期レビューを行った。
2. 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載されているとおり、会社は当第1四半期連結会計期間より「資産除去債務に関する会計基準」および「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」を適用している。
3. 重要な後発事象に記載されているとおり、平成22年7月28日開催の取締役会において、ストックオプションとして新株予約権の割当を行うことを決議した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。